

## カトリックの少女、拷問を受け暴行され殺される

ラホール、2010年1月25日 (ZENIT.org)

キリスト教徒を狙った暴力は、相手が子供でも容赦はしない。ラホールの裕福な弁護士の家で女中として働いていたシャジア・バシル (Shazia Bashir、12歳) は、主人に拷問され犯され殺された。

Fides (イタリア語版) によれば、この少女は極めて貧しいカトリック信者の家庭に生まれ、Chaudry Muhammad Neem という弁護士の家で8ヶ月働いていたが、この1月22日に主人に殴られ、乱暴されて命を奪われた。

今日 (25日) ラホールで行われた彼女の葬儀には、何千人もの人が参列したが、その中にはあらゆる宗派のキリスト教の司教たちがいた。また多くのイスラム教徒も弔意を表した。

Fides は、シャジアの殺害は、「キリスト教徒、なかでも最下層のキリスト教徒たちが、イスラム教徒の金持ちの家で働く (しばしば極めて惨めな仕事をさせられる) 場合に直面させられている、暴力と辱めの多くのエピソードの一つである」という。

少女は月に1000ルピア (約12ドル) をもらい、それで家族を助けていた。家族には両親と二人の既婚の姉と8歳になる弟がいた。

両親は、大部前から娘との面会を要求していたが拒否され、やっと帰ってきたと思ったら、明らかに虐待を受けた痕跡があったので、すぐにラホールのジナー病院に連れて行っただが、医者たちは手の施しようがなかった。弁護士は、2万ルピア (250ドル) を渡すので事件を黙っていてくれと頼んだが、両親は彼を訴えた。最初は、警察は事件の調査をしようとはしなかった。しかし、キリスト教徒たちの抗議でこの事件が公になった。

パキスタンの大統領アリー・ザルダイは、シャジアの家族に50万ルピー (約6万ドル) を慰謝料とした払い、少数民族省の大臣 Shahbaz Bhatti は「責任者は法廷の裁きを受ける」と保証した。

### 「耐え難い状態」

ラワルピンディ - (イスラムバード) の Christian Study Center の所長でカトリック信者のフランシス・メッボーブ・サダ (Mehboob Sada) 氏は、Fides に「言うに堪えないことだが、シャジアの悲劇はこれが最後ではない。少女は何の罪もないのに、虐待され殺された。・・彼女は幼く、弱く、キリスト教とであった。これ以上虐待の標的になる適当な条件はない。我々はこの耐え難い状況に怒りを覚える」と言った。

Christian Study Center は、キリスト教のすべての宗派を含む研究所で、パキスタンのキリスト教徒の現状に関する情報と分析で権威ある団体である。

「キリスト教徒は迫害下にあり、一般の市民として扱われていない。彼らは差別に苦しんでいる。パキスタンでは、キリスト教徒、中でも貧しい家族は、あらゆる種類の暴力と不正に苦しむ。我々はそれを示す一連の資料を集めた。警察も政府も、キリスト教徒の虐待をほとんど止めようとしなない。多くの場合、犯人は無罪放免されている」と非難した。

メッボーブ・サダによれば、最近では「キリスト教徒は、民族浄化を受ける危険と隣り合わせで、恐怖に怯えて生活することを余儀なくされている」

「犯人は誰かわかっている。それはすでに政府によって禁じられている過激派の組織の戦闘員であ

る」

シャジアの事件は、国家の人権委員会と他の社会の組織によっても断罪されたが、Chaudry Muhammad を弁護する弁護士協会もあった。